利他行動にパーソナリティが及ぼす影響

対象別利他行動尺度による検討

○小田亮¹・武田美亜²・清成透子³・福川康之⁴・平石界⁵

(¹名古屋工業大学・²青山学院女子短期大学・³青山学院大学・⁴早稲田大学・⁵安田女子大学)

キーワード：利他行動，パーソナリティ，ビッグファイブ

Effects of personality on altruism measured by SRAS-DR

Ryo ODA¹, Mia TAKEDA², Toko KIYONARI³, Yasuyuki FUKUKAWA⁴ and Kai HIRAISHI⁵

(¹Nagoya Inst. Tech., ²Aoyama Gakuin Women's Junior College, ³Aoyama Gakuin Univ., ⁴Waseda Univ., ⁵Yasuda Women's Univ.)

Key Words: Altruism, Personality, Big Five

目 的

日常生活において示される利他行動の頻度には個人差がある。このような個人差に影響していると考えられる要因のひとつとして、パーソナリティが挙げられる。パーソナリティのモデルとして最もよく使用されるのが5因子モデル（Five-Factor Model：以下 FFM とする）であるが、利他性と FFM との関係については、これまでいくつかの研究がある。しかしながら、それらは独裁者ゲーム（Ben-Ner, Kong, & Putterman, 2004），寄付（Bekkers, 2006），ボランティアの傾向（Carlo, Okun, Knight, & de Guzman, 2005）などを利他性の指標としており、日常的な利他性について検討したものはない。さらに、利他行動はその対象によって進化的な説明が異なる。例えば家族への利他行動は血縁淘汰理論によって、友人への利他行動は互惠の利他主義の理論によって説明できる。利他行動のメカニズムはこれを反映していると考えられるので、パーソナリティの影響も対象ごとに異なっている可能性がある。本研究の目的は、日常的な利他行動を対象で区別し、それぞれに対して FFM の5因子がどう影響しているのか明らかにすることである。

方 法

測度

利他性：対象別利他行動尺度（小田・大・丹羽・五百部・清成・武田・平石，2013）を用いた。過去に行った利他行動の頻度について5段階で答えてもらう尺度であり、それぞれ家族、友人・知人、他人を対象とした7項目の下位尺度、全21項目からなっている。

パーソナリティ：全29項目からなる Big Five 尺度短縮版（並川・谷・脇田・熊谷・中根・野口，2012）を用いた。

対象

5つの大学の学部生564名（男性233名，女性331名，平均年齢19.7±1.2歳）を対象に、講義時間を利用して質問紙を配布、回収した。

分析

対象別利他主義尺度の各下位尺度得点を基準変数、情緒不安定性（Neuroticism）、外向性（Extraversion）、開放性（Openness）、調和性（Agreeableness）、誠実性（Conscientiousness）および性別を説明変数とした重回帰分析を行った。交互作用項はモデルに含めていない。

結 果

情緒不安定性と外向性については、女性の得点の方が男性よりも有意に高かった。開放性と調和性については、男性の得点の方が高かった。誠実性については有意な性差がみられなかった。

重回帰分析の結果、決定係数は.1から.3程度であった（家族：.103，友人・知人：.268，他人：.119）。利他行動に影響

するパーソナリティ因子は、その対象によって異なっていることが明らかになった。まず、すべての対象について有意な影響があったのは外向性であった。一方、誠実性は家族のみ、調和性は友人・知人のみ、開放性は他人のみについてそれぞれ有意に影響していた。情緒不安定性の影響はどの対象についても有意ではなかった。性別は家族と友人・知人について有意な影響があり、女性の方が高い頻度で行っていた。

考 察

重回帰分析の結果から、FFM は日常的な利他行動頻度がある程度説明することが明らかになった。また、影響する因子は利他行動の対象によって異なっていた。対象別利他行動尺度は他者への具体的な行動の頻度を問うものであり、具体的に他者と関わらなければ得点が低くなる。外向性が全ての下位尺度に影響しているのは、これが理由ではないかと考えられる。誠実性が家族への利他行動に影響しているのは、誠実性が家庭環境の安定と関連しているからかもしれない。また、調和性が友人・知人への利他行動に影響しているのは、調和性が正直さや信頼性と関連しており、調和性の高い人は互惠的な関係を築きやすいからだと考えられる。一方、他人への利他行動には開放性が影響していた。開放性の高さは新奇性追求と関連しており、開放性の高い人はリスクを取りやすい傾向にあるといえる。他人への利他行動には直接的な見返りが期待できず、ある種の投資であるとみなせるので、リスクを取りやすい人ほど他人に対して利他行動を示しやすいのではないだろうか。

引用文献

- Bekkers, R. (2006). Traditional and health-related philanthropy: The role of resources and personality. *Social Psychology Quarterly*, **69**, 349-366.
- Ben-Ner, A., Kong, F., & Putterman, L. (2004). Share and share alike? Gender-pairing, personality, and cognitive ability as determinants of giving. *Journal of Economic Psychology*, **25**, 581-589.
- Carlo, G., Okun, M. A., Knight, G. P., & de Guzman, M. R. T. (2005). The interplay of traits and motives on volunteering: Agreeableness, extraversion and prosocial value motivation. *Personality and Individual Differences*, **38**, 1293-1305.
- 並川 努・谷 伊織・脇田 貴文・熊谷 龍一・中根 愛・野口 裕之 (2012). Big Five 尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討 心理学研究, **83**, 91-99.
- 小田 亮・大 めぐみ・丹羽 雄輝・五百部 裕・清成 透子・武田 美亜・平石 界 (2013). 対象別利他行動尺度の作成と妥当性・信頼性の検討 心理学研究, **84**, 28-36.